

## 余録

「跡供は霞ひきけり加賀の守」。

信濃を故郷とする小林一茶が、加賀藩前田家の大名行列の長大さを詠んでいる。最大時は4000人、少ない時も2000人規模の参勤交代を行った加賀百万石であった▲その金沢から江戸にいたるコースは、現在の富山、上越、長野を経て信濃追分で中山道に合流するルートがとられることが多かった。つまりきょう開業する北陸新幹線とおおむね重なるルートである。加賀藩の行列はこの道筋を12泊13日程度で通り抜けたそうである▲ただ寛永年間には6泊7日で江戸に着いたという飛脚並みの最速記録もある。徳川家と縁続きの正室が産気づき、將軍じきじきの参勤指示があったためだ。昼夜を分かつたずの強行軍は一行にはさぞかし過酷だったに違いない（忠田敏男著「参勤交代道中記」平凡社）▲そのほぼ同距離を最速の「かがやき」が2時間28分で駆け抜ける北陸新幹線である。参勤交代では700人もの波よけ人足が人垣を作って殿様を波から守った北陸道最大の難所・親不知もトンネルにより楽々と通過する。北陸地方と首都圏がぐんと近づくことになる▲もともと上方の経済・文化圏だった加賀や越中を江戸とも結びつけ、また街道沿いを経済的にも潤した加賀藩の大规模参勤交代だった。北陸新幹線もまた金沢や富山に首都圏の観光客やビジネスを呼び込むだけでなく、沿線各地の活力も掘り起こしてほしいところだ▲ちなみに江戸時代の金沢は全国でも江戸、大坂、京に次ぎ、名古屋と並ぶ人口を擁する町だったという。この春、百万石の絢爛たる行列が消えていった霞を突き抜け、新幹線が北陸を走る。